

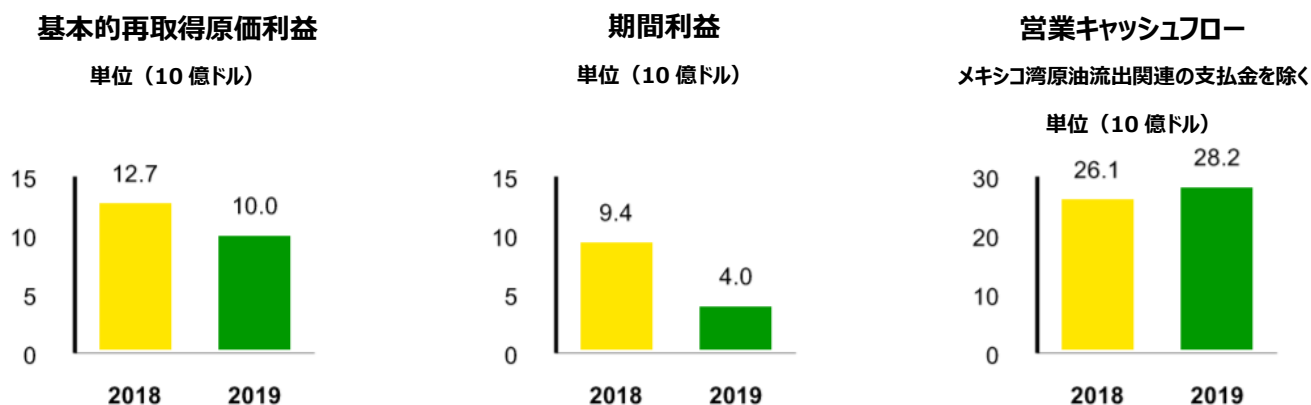
活発な操業、増加するキャッシュフロー、経営戦略の進捗が配当増を支える

2020年2月4日

BP p.l.c. (ビー・ピー・ピーエルシー)

「安全・確実な操業、経営戦略の進捗、しっかりとしたフリーキャッシュフローの実現など、BP は順調な経営を続けています。これによって、株主の皆様へ長期的に配当を増大させるという私たちのコミットメントを実現するとともに、本日増配をご報告することが可能になりました。10年近く CEO を務めてまいりましたが、当期をもちまして私が CEO を務める最後の四半期となります。この間、BP は一丸となり多くの素晴らしい業績を達成してきました。より安全で強くなった BP を、バーナード率いる経営陣へと引き継ぐことができ誇りに思っています。新たな経営陣のもと、BP は引き続き、エネルギー業界の急速な変化を乗り切っていけるものと確信しています。」

グループ最高責任者 ポブ・ダッドリー



堅調なキャッシュフロー、資産売却の強化

基本的再取得原価利益は、当四半期が 26 億ドル、2019 年通期で 100 億ドルとなりました。これに対して、2018 年の基本的再取得原価利益は同四半期が 35 億ドル、年度通期では 127 億ドルでした。軟調なマーケット環境の影響により、前年比で減益となりました。株主に帰属する純利益は当四半期が 1,900 万ドル、2019 年通期では 40 億ドルとなりました。

当四半期における営業外項目には、主に米国ガス資産の売却に関する税引き後減損費用 19 億ドルのほか、BP の新規バイオ燃料合併会社の設立に関する過去の為替差損の分類変更起因する費用 9 億ドルが含まれます。

メキシコ湾原油流出関連の支払金を除くと、年度通期の営業キャッシュフローは 282 億ドルとなりました。これには運転資本の減少による資金収支の改善 3 億ドル（棚卸資産の保有純益を調整後）が含まれます。

年度全体のメキシコ湾原油流出関連の支払金は、税引き後ベースで総額 24 億ドルとなりました。2020 年には 10 億

ドルを下回るものと見込まれます。

2019 年通期の内部資本支出 152 億ドルは、規律ある資本運用を維持するうえで望ましい範囲の最小レベルに収まりました。2019 年の年初以降に発表された事業その他資産の売却額は、現在、総額 94 億ドルとなっていますが、2020 年末までの資産売却の目標額 100 億ドルを達成するため、引き続き前倒しで資産売却を進めています。BP は 2021 年中頃までに、さらに 50 億ドルの資産売却合意を発表できるものと見込んでいます。

2020 年 1 月、BP は発表済みの自社株買戻しプログラムを完了しました。

当期において負債は 11 億ドル減少しました。負債比率は第 3 四半期末時点の 31.7%から減少し、当期末では 31.1%となりました。

当期における一株当たりの配当金は、前年同期比 2.4%増となる 10.5 セントと発表しました。

今期も続く確実な操業

下流事業では、2019 年通期の製油所稼働率が 95%となり、精製処理量は 2 年連続で過去最高となりました。上流事業のプラント稼働率は 2019 年通期で 94.4%となりました。

2019 年の石油・ガスの産出報告量は前年を 2.7%上回り、石油換算にして日量平均 380 万バレルとなりました。ロスネフチおよび上流資産ポートフォリオの変更を除いた上流事業の年度全体の基本的生産量は、2018 年と概ね同程度で推移しました。

低炭素事業の拡大、新規プロジェクト、小売拡大

2019 年、BP は傘下の太陽光発電の合弁会社ライトソース BP への出資比率を 50%に引き上げ、低炭素事業を拡大しました。また、BP がブラジルに新規設立すると発表していたバイオ燃料・バイオ発電事業の合弁会社「BP Bunge Bioenergia」の設立が完了しました。

2019 年には 5 件の上流大型プロジェクトが生産を開始したほか、さらに 5 件のプロジェクトについて最終投資決定が行われました。

2019 年、BP は急成長している燃料市場において、引き続き事業拡大を行いました。また、インドのリライアンス・インダストリーズと燃料事業に係る合弁会社設立に合意しました。